メンタルヘルス不調による休職・離職経験を経て働き続けるキャリア中期看護師のプロセス

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-06-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00051283

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

平成　３０年　２月　２０日

博士論文審査結果報告書

報告番号

学籍番号　1529022017

氏　　名　中本　明世

論文審査員

主　査（職名）　加藤　真由美（教授）　印

副　査（職名）　田淵　紀子（教授）　印

副　査（職名）　北岡　和代（教授）　印

論文題名　メンタルヘルス不調による休職・離職経験を経て働き続けるキャリア中期看護師のプロセス

論文審査結果

【論文内容の要旨】

本研究は，キャリア発達の視点を踏まえた支援体制構築のために，メンタルヘルス不調による休職・離職を経て復帰し看護師として働き続けるプロセスを明らかにすることを目的とした．3 年以上の職務経験の後にメンタルヘルス不調による休職もしくは離職を経験し，看護職に復帰したキャリア中期看護師 9 名に半構造化面接を行い，時間を捨象せず多様な経験のプロセスを理解しようとする複線径路・等至性アプローチを用いて分析した．その結果，「見通しをもって看護師を続けていく」という等至点に至るまでのプロセスにおいて，「心身に強く仕事の負担がのしかかる」「現状と先行きへの不安に職業継続意思が揺らぐ」「何もしていない焦りと不安を抱え葛藤する」「看護師としての自分を立て直す」という，何らかの迷いや複線性が生じる点である 4 つの分岐点が見出された．また，心身にかかっていた仕事ストレスの荷を下ろす前までは，＜看護を担う専門職者としての信念＞がキャリア発達の促進要因かつ阻害要因として働いていることが明らかとなった．本研究の結果より，メンタルヘルス不調による休職・離職経験のある看護師へのキャリア発達支援には，何らかの迷いや複線性が生じる分岐点に着目し，経験に応じた細やかな支援が必要である．また、キャリアを再構築させる上で，心身をセルフコントロールできる思考や行動，自分のあり様を認めること，看護師である自分の価値を再認識することが重要である．さらに，信念に見合った仕事が遂行できなければ自己成長を実感できないと考えられるため、組織が期待する役割と看護師個人が大切にしている信念が大きくかけ離れないことも重要である．

【審査結果の要旨】

メンタルヘルス不調による休職・離職を経て職業復帰した看護師に焦点を当てた，貴重で学術的価値のある研究であり，その看護師たちが経た多様なプロセスを科学的にきめ細かに描いた点は大いに評価できる．また，本研究の結果に基づいてこの研究を今後さらに発展させ，現場で具体的に活用できることも期待できる．公開審査では，いずれの質問にも適切な応対がなされた．以上，学位請求者は本論文審査及び最終試験の状況に基づき，博士（保健学）の学位を授与するに値すると評価する．